

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2010年2月NO.18

SMILES

<http://www.childfund.or.jp>

シリーズ“食べる”

5

学校に行く前に朝ごはんを食べる子ども。

練ったトウモロコシの粉に菜っぱの炒め物(カレー味)と和え物(アチャール)の食事。ムシロに座って右手で食べます。ネパールでは通常、食事は1日2回。肉類は高価なので食べることはめったにありません。

写真:ネパール、ラメチャップ郡



特集

ネパールの子どもたちの未来を開く

ChildFund
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。

* ハロハロとはタガログ語(フィリピン語)で“いろいろ”“まぜこぜ”という意味です。
このページは読者の皆様からのリクエストや投稿などをもとにするページです。

ハロハロのページ

空に近い場所、ラメチャップ郡

2010年4月、いよいよネパールでスポンサーシップ・プログラムが始まります。今回、募金グループの小保方珠実が支援地域であるラメチャップ郡へ出張してまいりましたので、現地の様子をレポートします。



小保方 珠実(おほかた たまみ)

2007年4月よりチャイルド・ファンド・ジャパンのスタッフになり、現在はイベント運営や広報物の作成、ホームページの管理を担当しています。チャイルド・ファンド・ジャパンをより多くの方に知っていただくために、毎日仕事をしています。(小保方:右端)

子どもたちの家は 空に近い場所にありました

ラメチャップ郡は平均の標高が2,000メートル、高低差が数百メートルの山々と段々畑が広がるすばらしい所でした。朝、太陽の光が真横から差し込んできます。夜は満天の星。天の川がはっきりと見えます。人々は太陽が昇る前、真っ暗なうちから活動を開始し、子どもたちも水汲み、草刈(家畜の餌)、朝食の用意、掃除などお手伝いをします。



段々畑が重なり、家が点在するラメチャップ郡。美しく牧歌的な風景ですが、歩いて昇り降りすることを想像すると…。

景色はすばらしい!…ですが

子どもたちが学校に通うのは大変です。訪問した家は山のふもとにあり、学校はその山の上。家から山を見上げても、学校は見えません。「1時間ぐらい登るのかな」と思って出発しましたが、学校に着くまでに、なんと2時間半もかかりました! 歩き始めて30分過ぎた頃から同行してくれたネパール人の女性スタッフ、アニタと話をすると元気がなくなり、滝のような汗。そこで休憩。さらに1時間後には、足がパンパンになり、頭がクラクラし始めました。そんな私の様子を見かねて、アニタが「荷物持つよ」と。「子どもたちは雨の日も風の日も、暑いときも寒いときも、毎日この山道を歩いているのか…」と子どもたちを取り巻く環境の厳しさを実感しました。



険しいのぼり道、上の方に写っているのはネパール人の女性スタッフ、アニタ。(この後、私の登るペースがどんどん遅くなり、彼女の姿は見えなくなりました…)



教科書をかかえ、すべりやすい坂をくだって家へ帰る子どもたち



2時間半かけてやっと到着した学校

取材を終えて

今回、支援地のラメチャップ郡を訪問し、フィリピンやスリランカとはまた違うネパールの魅力を感じるとともに、その環境の違いも実感しました。ネパールは美しい山々に囲まれ、観光による外貨収入に頼っています。その一方で、山道を長時間通学する子どもたちがいます。「学校に通うのは大変じゃない?」と質問したところ、「大変だけど、学校に来て友だちと勉強したり、遊んだりするのが楽しいから大丈夫」という元気な答えが返ってきました。このたくましい言葉を聞き、この子どもたちが学校に通い続けられるよう私も頑張ろうと、決意を新たにしました。小保方珠実(募金グループ)

特集

ネパールの子

ネパールでのスポンサーシップ・プログラムがいよいよ4月から始まります。フィリピン、スリランカに続いて3番目の支援国となるネパールは、子どもたち、とりわけ女の子への教育支援の必要性が高い国です。その現状を、支援地域であるラメチャップ郡、ランブル村に住む少女、リンマヤの生活を通してお伝えします。



山肌にへばりつくようにして立つ家々と急な斜面を耕して作った段々畑が広がるランブル村

ネパール

人口:2,643万人(日本の2割)
面積:14.7万平方キロ(日本の4割)
海拔70メートルの平野から、世界の最高峰エベレスト山(8,848メートル)まで連なる山間部を含んでいます。山の連なるこの地形が、人々の生活の厳しさにつながっています。

ラメチャップ郡

人口:23万人(2008年推定値)
面積:1546平方キロ(大阪府とほぼ同じ)
ネパールにある75郡のうち、生活水準や経済活動で見た開発指標では56番目に位置する貧しい郡です。
人口の多くは、主に海拔1,000~3,000mの山間部に住み、トウモロコシ、米、麦、ジャガイモなどの栽培を主とする農業で生計を立てています。近年は首都のカトマンズや観光地のポカラへ出稼ぎが増えています。
識字率:48% 電気の普及率:7%

リンマヤの夢

雪をかぶったヒマラヤ山脈をはるかに望むラメチャップ郡、ランブル村。抜けるような青い空の下に、土壁と木でできたリンマヤ(10歳)の家がありました。朝ごはんの支度をしているリンマヤに「学校は好き?」と問いかけると、それまでうつむきがちに静かにかまどの火を見ていたリンマヤは急に顔が明るくなりました。「うん。友だちがいるし、本を読むのは楽しい。10年生^{※1}までじゃなくて、その先も勉強を続けて看護師になりたいの。」「どうして看護師なの? 看護師のこと知っているの?」と聞くと、「病気になった友だちが町の病院に入院していたときに見たの。友だちの病気を治してくれたの。私もみんなの病気を治せるようになりたい...」僻地の山村で生活する小学校4年生のリンマヤにも、実現したい大きな夢、自分の力で切り開きたい未来があります。しかしネパールの社会には、このような子どもたちの夢の実現を阻む、大きな壁があります。




リンマヤ

ラメチャップ郡、ランブル村の小学校4年生(10歳)。5人兄弟姉妹の2番目で、お母さんの手伝いをする働き者。出稼ぎでお父さんが家にいないのはさみしい。勉強好きで、本を読むのが好き。



萱の屋根と土壁でできたリンマヤの家

※1 10年生:日本では高校1年生に相当する。学校制度については、右の図  [ネパールの教育制度](#) を参照



教室で授業を聞くリンマヤ(中央)



乳飲み子を抱えた母親に代わって朝ごはんの支度をするリンマヤ



かまどのスで汚れたお鍋を洗う



薄暗い灯心ランプの火の下で宿題をするリンマヤと姉

子どもたちの未来を

第1の壁 貧しさとの闘い

リンマヤには、姉と弟、2人の妹がいます。お母さんのブルマヤさんは自分の畑でトウモロコシを栽培していますが、1年の収穫量は家で食べる3か月分を賄うのがやっとで現金収入にはなりません。^{※2}足りない食糧を買ったり、年に一度のダサインのお祭りに着る衣服や食事の費用は、「いろいろなところから借金をして凌いでいます。ここ10年間で借りたお金は15万ルピー（約18万円）くらいになり、返済もままなりません」とブルマヤさんは苦しい台所事情を話します。

リンマヤが学校へ行きはじめてからは、教科書やノート代などの出費も増えたため、お父さんは数年前からカトマンズへポーターとして出稼ぎに出ました。「月に2,000ルピーから2,500ルピーくらい(2,400円～3,000円)は仕送りしてくれるので、何とか食べていますが、リンマヤの弟や妹が学校に通い始めたら、ノート代、制服代、試験の費用など支払えるかどうか…」とブルマヤさんの心配はなくなりません。

「夫は6年生まで学校へ行きましたが、やっとポーターの仕事ができる程度です。私が学校へ行っていたら、もう少し楽な暮らしができたかもしれないと思うと悔やまれます。だから家計が苦しくても子どもたちには学校を続けて欲しいと思っています。」



トウモロコシ粉を練った主食とわずかな野菜のおかずで食事をする家族。

※2 この地域では食糧を半年以上自給できる家庭は半分に満たない。

第2の壁 生活の厳しさ、山での暮らしと通学

大好きな学校へ行く前にリンマヤにはやらなければならないことがたくさんあります。畑の仕事などで忙しいお母さんを手伝って、姉と2人で家事を切り盛りしているからです。ヤギの世話、弟や妹たちの世話、水汲み、薪集め、朝食の用意など、日の出から9時に家を出て学校へ行くまで、仕事は尽きません。「家の仕事も大変だね。勉強する時間はあるの?」と聞くと、「そうよ大変なの。『もっと本を読む時間が欲しい』って、いつもおかあさんに言ってるの。授業の中では国語が好き!」ここでもリンマヤは、学校へ通うことの意欲を語ります。

険しい山道を歩いて学校へ通う

10時から学校が始まるため、朝食を終えたリンマヤは9時過ぎには家を出て山道を下り、30分ほど先の学校へ向かいます。「雨が降ると泥道になって、服が汚れてしまうけど、それでも絶対学校へ行きたいわ。汚れたら私があとで洗濯するから大丈夫。」

カバンが無いので教科書やノートを小脇に抱え、サンダルを履いて姉や近所の子どもたちと一緒に山道を下ります。帰りは、上り坂の山道をのぼるのに小一時間かかります。家に着いたらすぐに、外につないでいたヤギを小屋にいれ、姉と共に薪拾いや水汲みに出かけます。それから夕食の支度です。

忙しい毎日の家事をこなしながら、リンマヤは学校に通っています。しかし、母親のブルマヤさんが心配するように、妹や弟たちが学校に通い始めたとき、リンマヤは本当に「看護師になる」という夢のために勉強を続けられるのでしょうか?貧しさの問題はリンマヤの将来に暗い影を落としています。



リンマヤの通う学校は、山の中腹のわずかな台地に建っている。



夕方、ヤギを小屋に入れる



学校から帰宅後、薪を集めて暗くなった山道を登るリンマヤ



ノートを抱え、学校への山道を下る

第3の壁 文化の壁

リンマヤの母親のブルマヤさん(39歳)が、子どもたちの教育の機会を願う背景には、自分が学校に行けなかったという辛い経験があります。ネパールの女性たちの多くは、根強く残る文化的な考え方の故に、等しく教育を受ける機会がありませんでした。

ブルマヤさんは、「なぜ学校へ行かなかったのか」という問いかけに、自分の生い立ちをこう説明しはじめました。「私の兄たちは5年生くらいまででしたが学校へ行くことができました。だから、私もとても学校へ行きたかったです。でも、私の父は、女の私には学校へ行くことを許してくれませんでした。※3代りに家で家畜の世話や家の仕事をするように言われました。」

ブルマヤさんがやっと勉強する機会を得たのは、19歳になった時に参加した識字教育のクラスが初めてでした。ここで、名前だけは書けるようになったものの、十分な読み書きは今でもできません。

「生活が苦しいので借金をしなければなりません。でも借用書に署名するときは、書いてある内容がよく分からないのでとても心配です。」学校へ行けず、読み書きが十分できないことが今になって大きなハンディを背負う結果になったと、ブルマヤさんは言います。ブルマヤさんの世代の女性は、誰でも同じような悩みを抱えています。ラメチャップ郡全体でも、読み書きが十分できる大人は48%しかいないのです。

ネパール社会の中に残る、女性に対するこのような考え方も、子どもたちの教育を阻む要因の一つになっています。

※3ヒンズー教の影響が色濃く残るネパールでは、親が死ぬときに葬儀をつかさどる男の子が宗教的に大切な存在であり、女の子には重さが置かれてきませんでした。親の財産の相続権も、2002年の法律改正までは、女の子には認められていませんでした。教育の面でも「よその家に嫁に行く子どもにお金を使う必要は無い」という考え方が伝統的に根強くあります。今回支援するラメチャップ郡でも、女の子の就学率は男の子の80%程度です。



ブルマヤさん
一男四女の5人の子どもの母親(39歳)。首都のカトマンズに出稼ぎに出ている夫の留守を守っている。女性であるため、学校へ行くことができなかった。



畑で採れたトウモロコシを挽く



ネパールのスポンサーシップ事業では、支援チャイルドが中期中等教育の10年生を修了するために受けるSLC*(School leaving Certificate)を受験するまで子どもたちを支援します。

*10年生を修了する時点で受ける8科目の試験。これに合格しないと上級の学校へ入学できない。また最近では就職の際にも「SLC合格」が必須条件になることが多い。



ランブル村のビメシュワール学校。中央の2棟が校舎。369人が学んでいる。

SLC試験	年齢	学年	教育段階
25	20		大学
24	19		
23	18		
22	17		
21	16		
20	15		
19	14		
18	13		
17	12		
16	11		
15	10		
14	9		
13	8		
12	7		
11	6		
10	5		
9	4		
8	3		
7	2		
6	1		
5			
4			
3			

取材を終えて -ネパールの子どもの『開かれた未来』に向けて-

神々しいまでのヒマラヤの山々の美しさの陰には、ネパールの山の民の過酷な生活がありました。山の民の子どもたちは、数百年にわたって、等しく教育を受ける機会がありませんでした。時には「女性に対する文化的偏見」が、時には「貧しさ」が、そして時には「道を阻む険しい山の峰々」が、子どもたちの夢を閉ざしてきました。

これまで多くの人々が、子どもたちの夢の実現に向けて幾多の努力を重ねてきましたが、わずかな光が当てられたに過ぎません。これから始まるチャイルド・ファンド・ジャパンの働きは、子どもたちの夢の前進に貢献するものです。暗闇の中でも、一筋の光は常に子どもたちの未来に向けた希望の光であり続けることを信じながら。

2009年11月17日 ラメチャップ郡の満天の星の下で 松浦宏二(募金グループ)



ラメチャップ村のアンピカさん(11才、左から2人目)の家族と共に

ネパールの子どもたち300名(第1陣!)の支援にご協力ください。

お申し込みは、ホームページ、同封の申込み用紙をご利用ください。

チャイルド・ファンド・ジャパンは、今年4月より、特集記事でご紹介したようなネパールの子どもたち300名を対象に教育の機会を提供するため、スポンサーシップ・プログラムを開始します。一人でも多くの子どもたちの夢が実現し、子どもたちの未来が開かれるように、多くの皆様からのご協力をお待ちしております。



ネパールのスポンサーシップ・プログラムで目指すもの

1. 支援チャイルドの通学を確保し、中等教育を修了すること
(通学に必要な学用品、制服などを支援します。)
2. 学校運営委員会(先生、保護者代表、村役場代表、住民代表などで組織)を活性化して、
— 困難な状況の子どもたちに政府奨学金が届くようにし、学校を継続できるようにすること
— 学校の設備や運営方法を改善し、子どもたちに質の高い教育が提供されるようにすること。
3. チャイルドの父母や地域の人々に働きかけ、子どもの教育の必要性を説き、すべての子どもが学校へ通えるように、地域社会で子どもの教育への関心を高めること。

スリランカから アーユボワン

vol.5



アーユボワン：シンハラ語で「こんにちは」

今号ではチャイルドの一人、サチンドゥの一日をご紹介します。サチンドゥが暮らす地域はインド洋に面した漁村で、チャイルドの親の多くは漁で生計を立てています。

あるチャイルドの一日

こんにちは! 僕はサチンドゥ。8歳、3年生。両親、2人のお兄さん、妹と暮らしています。今、お父さんは遠洋漁業で2週間留守にしているので、ちょっとさみしいな。僕の一日をご紹介します!



AM6時 起床



着替をするサチンドゥ。
後ろは蚊帳



今日の朝食は煮た豆(ダル)とコナツツの実を削ったもの。学校に持って行って、授業が始まる前に食べます。

AM7時 登校

2kmの道のりを、毎日、友だちと一緒に歩いて通っています。



僕の学校は、1年生から11年生まで、725人の生徒がいます。まずは朝礼。交代でみんなの前で数分のスピーチをします。僕の番の時はドキドキです。

AM8時 朝礼



僕のクラスメート。
43人のクラスです。

PM7時 夕食/8時 就寝



家族と一緒に。スポンサーさんからのカードは僕の大変な宝物!

友だちの家にテレビを観に行くと寝るのが9時くらいになることもあります。



宿題が終わったら、友だちと思いっきり遊ぶ、楽しいひととき。

PM2時 学校の宿題



家には電気がないので、明るいうちに庭で宿題を済ませます。

PM1時 帰宅、昼食

今日の昼食はダル(豆)とお魚。家に帰って食べます。

スポンサーさんからの支援で手にしたノートとかばんを嬉しそうに見せてくれたサチンドゥ。テレビゲームなどないけれど、外で元気いっぱい走り回る姿、大事にとってあるスポンサーさんからの手紙をはにかみながら見せてくれた姿が印象的でした。今日もチャイルドたちは元気いっぱい勉強に、遊びに励んでいます。

オカルドウンガ地域病院事業

[地域の学校にトイレができました!!] ~2009年度進捗状況~



ネパール

- 【ネパール】
- ▶ オカルドウンガ地域病院事業
 - ・スポンサーシップ・プログラムスタートアップ事業
 - ・故細野雅央様からのご寄附による教育支援プロジェクト
 - ・アマルプール小学校建設事業
- 【フィリピン】
- ・パラワン族生活改善プロジェクト
- 【スリランカ】
- ・国内避難民に対する緊急支援事業

- 協力期間: 1996年7月中旬~2011年7月中旬
- 支援対象: オカルドウンガ郡(人口約18万人)と近隣5郡の住民
- 協力団体: UMN*(United Mission to Nepal)

*1954年からネパールで活動している国際NGO。保健、教育の分野を中心に多くの事業を行い、ネパールの僻地での生活向上、人材育成に大きな貢献をしてくれている。「オカルドウンガ地域病院事業」はUMN事業のひとつ。

【 地域保健事業 】

病院周辺の村々の健康促進を目指して行われる地域保健事業で、1つの学校にトイレが建ちました。総額39,000ルピー(日本円で約47,000円)のうち事業から20,000ルピーを支援し、残りは地域住民が負担しました。これまで学校にはトイレがなかったので、特に高学年の女子が学校に来たがらないという問題がありました。9ヶ月間の子ども保健教室が修了した地域では、子どもたちが「子どもクラブ」を作り、参加しなかった子どもたちに保健についてのメッセージを伝える活動を継続しています。事業からはこれらの「子どもクラブ」に対して、ゲームや楽器、スポーツ用品の支援をしました。

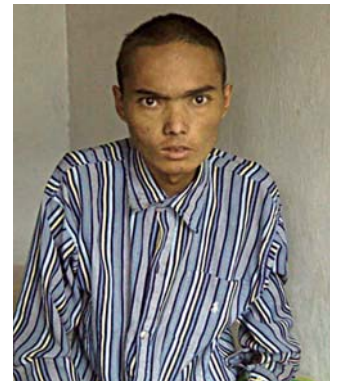


学校に完成したトイレ

【 結核患者の治療、子どもの栄養リハビリ 】

2009年7月中旬から10月中旬までの3カ月間に、病院で26名の結核患者が治療を受けました。そのうち9名は入院して直接投薬を受け、牛乳や卵など栄養価の高い食事を支給されました。栄養リハビリセンターでは、14人の栄養不良の子どもを2週間入院させ、子どもへの食事療法、母親への栄養指導を行った結果、栄養状況が改善して退院することができました。

2009年度は、病院の5ヵ年計画の4年目にあたります。そのため、これまでの活動の事業評価を行うための準備を行っています。



入院中の結核患者のサブット・ラル・タマンさん(20歳)。2009年9月には無事に退院できました。



つながり・ふるじえくと

TSUNAGARI PROJECT

~ 5周年記念事業 ~

今年で設立5周年を迎えるチャイルド・ファンド・ジャパンは、記念事業として以下のプログラムを企画しています。詳細は、今後のSMILESなどでお知らせいたします。皆様のご希望、ご意見をぜひお聞かせください。

(電話:03-3399-8123、メール:childfund@childfund.or.jp)

1	活動報告会	フィリピンよりゲストを招いて、各地で報告会を開催します。9月に実施予定です。
2	記念映画上映会	8月末の完成を目指し、記念映画の制作が進んでいます。フィリピン、ネパール、スリランカ3カ国の子どもの状況や、スポンサーの方々をご紹介します内容です。9月に各地で開催される報告会でも上映いたします。この映画は、一人でも多くの方々に観てもらうためにDVD版を作成し、貸し出しなどを行いません。
3	チャリティコンサート	2011年3月に実施予定。出演者、場所などについては現在調整中です。
4	メールマガジンの配信	5周年記念のためのメールマガジンを発行します。配信をご希望される方は、以下のアドレスに、お名前と受信を希望なされるメールアドレスをご連絡ください。現在メールアドレスを登録されている方も、お手数ですが、改めてお知らせください。件名にはメルマガ配信希望とご記入ください。4月以降配信を開始します。childfund@childfund.or.jp

インフォメーション コーナー

お知らせ スポンサーの申込が始まりました

本号の特集でもお知らせいたしましたが、ネパールで4月よりスポンサーシップ・プログラムが開始されます。ネパール東部のラメチャップ郡の子どもたちの教育を支援するため、2月からスポンサーのお申込をお受けいたします。どうぞネパールのチャイルドを支援くださいますようお願いいたします。同封のチラシでお申込ください。



子どもたちが学校を続けられるようご支援ください

お知らせ ホームページを一新しました



ネパールでのスポンサーシップ・プログラム開始に先立ち、ホームページを全面改訂しました。ネパールの子どもたちの動画も掲載されています。全てが新しくなったホームページをどうぞご覧ください。URLは今までと変わりません。

www.childfund.or.jp

ご協力ください! 書き損じハガキを送ってください



書き損じハガキを今年も回収しています。ハガキ10枚で、教材が不足しているネパールの子どもたちに教材3枚1セットを送ることができます。書き損じた年賀状、余ってしまった年賀状をどうぞお送りください。

お願い クリック募金にもご協力ください



皆様のご協力により、クリック募金の寄附額が増えています。今後とも「クリック」にご協力ください。チャイルド・ファンド・ジャパン、ホームページのトップページの「価格.com」のバナーをクリックしてください。

報告 J-WAVEで紹介されました

東京近郊にお住まいの方々にはお知らせしましたが、1月29日、ジョン・カピラさんがナビゲーターを務めるラジオ番組「JK Radio」に、募金グループ・スタッフの小保方珠実が出演しました。内容はJ-WAVEのホームページでご覧いただけます。
<http://www.j-wave.co.jp/original/tokyounited/>

報告 冬募金キャンペーンのご報告

まだ目標に達していません。2009年12月よりご協力をお願いしているオカルドゥンガ地域病院募金キャンペーンは1月31日現在、1,213口、8,494,848円のご協力をいただきました。皆様よりのご協力ありがとうございます。目標の1,000万円にもう一息(85%達成)です。どうぞご協力ください。

報告 チャリティゴルフ大会のご報告

第5回スマイリング・パートナーズチャリティゴルフ大会が行なわれました。(2009年12月2日 主催:スマイリング・パートナーズ チャリティゴルフ大会実行委員会 代表読売巨人軍 篠塚和典さん) 今まで最大の269名が参加くださいました。このゴルフ大会を通して、フィリピンのチャイルド20名、そして今回からネパールのチャイルド5名をご支援いただいています。



優勝者(左)にトロフィーを渡す篠塚さん(右)(中央は賞品を渡すデルタ航空の高橋雅治さん)

報告 センター長会議が開催されました

フィリピンにある21か所の全支援センターの責任者が参加してセミナーが開催されました。(1月12日から14日までマニラの郊外、タガイタイにて)今回は、国連で「子どもの権利条約」が採択されて20周年を迎えたことから、条約の視点から支援事業を点検し、引き続き子どもの権利を守る取り組みの充実に努力することを確認しました。



フィリピンのチャイルドたちの成長を守るセンター長たち

報告 領収証の発送が終了しました

2009年4月1日から12月31日までにご送金いただきましたご寄附の領収証の発送を全て終了いたしました。スポンサーの皆様にはこの期間のご寄附を合算して領収証をお届けしました。また、プロジェクト・サポーターの皆様には、ご寄附の度に領収証をお届けしました。なお、チャイルド・ファンド・ジャパンは、2009年4月1日に、国税庁長官より「認定NPO法人」として認定されました。お届けした領収証は、確定申告の際に寄附金控除の領収証としてご利用いただけます。2009年1月1日から3月31日までにご送金いただいたご寄附は寄附金控除の対象になりません。ご了承ください。この期間のご寄附についての領収書は、昨年5月にすでにお届けいたしました。ご不明な点がございましたら、会計・庶務グループ(TEL:03-3399-8123 平日9:30~17:30)までご連絡ください。

ChildFund
Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

ミッション(使命)

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス

ChildFund
Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

スマイルズ

<チャイルド・ファンドより SMILES> 2010年2月発行
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長 深町正信(青山学院名誉院長) 事務局長 小林毅
TEL: 03-3399-8123 FAX: 03-3399-0730
E-mail: childfund@childfund.or.jp
URL: <http://www.childfund.or.jp/>

<デザイン>
モスデザイン研究所
<印刷>
有限会社東西印刷



大豆インキを使用